

2018年1月17日

日本プロテオーム学会
第6期理事(2018年～2020年)
第一回理事会 議事録

開催日時：2018年1月17日(水) 14:00～17:15

会場：国立がん研究センター研究所 新研究棟8階 8A 会議室

出席者(50音順, 敬称略)：足立淳, 石濱泰, 植田幸嗣, 奥田修二郎, 小田吉哉, 梶裕之, 川島祐介, 河野信, 川村猛, 紀藤圭治, 木下英司, 木村弥生, 久保田一石, 小迫英尊, 小寺義男, 近藤格, 榊原陽一, 杉山直幸, 曾川一幸, 高尾敏文, 堂前直, 朝長毅, 肥後大輔, 本田一文, 松本雅記

欠席者(50音順, 敬称略)：大槻純男, 小松節子

ウェブ参加者(50音順, 敬称略)：荒木令江

1. 会長挨拶(石濱)

(1) 理事変遷と学会沿革について紹介されるとともに, 学会運営における以下の留意点について確認がなされた。

- ① 事務委託をせずに会計を自分たちで管理し年会費を極力安くしていることから, 理事の負担が大きくなっているが, この体制を継続したい。
- ② 今期からの会計は会計事務所による外部監査が入る予定なので, 場合によっては納税することにもなる。

2. 会計一般担当(仮称)の設置について(石濱)

(1) 今年度の年会までの通帳管理を前期会計担当理事(主)の榊原先生に管理をお願いしたく, そのため特例として3期連続しての理事(会計一般担当(仮称))に選任することが提案された。理由および詳細は以下のとおりである。

- ① 現在は日本プロテオーム学会名義の口座を榊原先生(前期の会計担当理事(主))が管理している。現在, 今年度の年会のために石濱会長名義で別口座を開設しており, 年会が終わるまでは両口座を別々に管理するほうが運用しやすい。
- ② 学会規約上は会長指名理事を選挙後に選ぶことが可能なので, 問題はない。

③ ただしこれを前例とはしない。

前例としないことに加え、次期(4期目)の理事候補とはならないこととし、承認された。

3. 新理事・自己紹介

(1) 各理事による自己紹介(所属・氏名)がなされた。

4. 理事役割分担について(石濱)

(1) 各理事の役割分担を決める際に、今期の理事会3役(会長, 副会長, 庶務担当(主))の任期が今季で満了するため、その点に十分留意して次期の理事会への継続性を考慮した人材配置が大事であることが確認された。あわせて必要な人数も適宜議論された。

(2) 会長からの推薦または自己推薦により、以下の担当役割分担が決定した。大槻先生の役割分担のみは、本人の同意が得られ次第確定することとなった。

理事役割分担	氏名	備考	理事役割分担	氏名	備考
会長	石濱泰		学術企画	植田幸嗣	主
副会長	梶裕之			荒木令江	副
庶務	松本雅記	主		久保田一石	副
	紀藤圭治	副	国際	小松節子	主
	足立淳	副		近藤格	副
会計	木村弥生	主	大会(年会)	堂前直	主
	杉山直幸	副		川村猛	副
会計一般(仮称)	榊原陽一		教育	曾川一幸	主
広報	奥田修二郎	主		小迫英尊	副
	河野信	副		肥後大輔	副
学会誌編集	本田一文	主	監事	川島祐介	副
	大槻純男	副		高尾敏文	主
	小迫英尊	副		小田吉哉	副

(3) 今期の各役割について、以下の事項が報告または議論された。

① 教育担当について:今年度合同大会の1セッションを教育セミナーとしている。

② 広報担当と学会誌担当について:両担当で協力して学会誌国際化の実現とそのため科研費取得を目指していく。そのための課題として、以下の点について主に前学会誌担当理事を中心に意見が出された。これらの点は執行部会も含めて継続して議論していくこととなった。

(ア) 投稿数の確保のために学会賞は学会誌に投稿してもらうよう依頼しているが、
現実は投稿に至らない場合も多い。

(イ) 国際化のためには、まずは英文での総説を投稿して欲しい。

(ウ) 一方で日本語のみでの読者にどう配慮していくかも重要な課題である。

(エ) プロトコール、jPOST の Annual report、企画号、などで論文数を確保しては
どうか。

③ 学術企画について:今年度の生化学会のシンポジウム提案は中止の方針でいる。
分子生物学会でのシンポジウム企画を考えている。

④ 国際担当について:今年度合同大会の1セッションを国際的なセッションとして担
当する。

⑤ 大会担当について:従来は大会運営内容の申し送りを実行委員長どうしで行っ
てきたが、年会運営の引き継ぎにおける一つの問題点であった。今後は、大会
主旨、ウェブシステム、事務的事項などの引き継ぎを効率的に行うようにし、年会
実行委員の役割はプログラム編成を中心としたものにとどめていく。そのための
体制を学会自体で作っていく。

5. 前期理事からの引き継ぎ

(1) 朝長前会長より前期の総括がなされた(資料 02 参照)。以下に簡潔に要点を記載す
る。

① 各理事の役割分担を決めることで、学会運営における意思決定体制を変えてき
た。

② 学会略称名を JPrOS (Japanese Proteome Society)し、また学会誌の刊行を行っ
た。

③ 学会主導での外部予算獲得(jPOST)や会員増加に取り組んできた。

(2) 小寺前庶務担当より以下の報告がなされた(当日配布資料参照)。

① 理事の主な仕事・年間スケジュールについて、当日配布資料をもとに報告がなさ
れた。今後法人会員の充実がより重要であること、納税と会計事務所による会計
管理が今年度9月から開始されること、が付け加えられた。

② 会員数の変遷について、当日配布資料をもとに報告がなされた。そのなかで年
会費の3年間未納者が登録者の3分の1程度にのぼることから、会費未納の会員
への対応について継続的に議論していくこととなった。

- ③ 委託先の会計事務所について、より低価格の事務所があれば適宜変更していくことも、今後の検討課題として挙げられた。
- (3) 木下前学会誌編集担当より Proteome Letters 関連の報告がなされた(資料 03 および 04 参照)。
- ① 学会賞受賞者への執筆依頼など、前期の投稿・編集状況について報告がなされた(資料 03)。
 - ② J-STAGE への搭載が決まったことから、J-STAGE 利用説明会への参加が今期の学会誌編集担当理事に依頼された(資料 04)。
 - ③ 複数の査読者を確保するのが難しい場合もあることから、学会誌規定第7条の「複数の査読者(Referees)」から複数を除き、「査読者(Referee)」と改訂する案が提案され、承認された。
 - ④ 編集委員会のなかから査読者を確保するのが難しい場合もあることから、学会誌規定第8条をなくすことが提案され、承認された。
- (4) 榊原前会計担当より以下の報告と審議依頼がなされた(当日配布資料参照)。
- ① 学会名義の通帳の会計資産について当日配布資料(資料 05 の改訂版)にもとづいて報告がなされた。
 - ② 年会費の規約について、学会規定と HP 記載内容との整合性を解消した文面に改訂するための審議依頼がなされた。とくに合同年会開催の際には年会参加費と年会費が区別できた方が良い点、会員数などの面では現行の HP 記載内容の方が望ましい点、などの意見交換がなされた。本案件は継続議論となった。
 - ③ 2017年大会の残予算(約68万円)の会計処理について、参加登録・演題登録システム利用料金とするための案が出された(当日配布資料)。学会が保有するシステムの利用料金としての処理は、会計事務所による判断では問題はない。本案件は継続議論となった。
- (5) 朝長2017年大会長より JPrOS2017 の収支報告がなされた(資料 07 参照)。
- ① 2016年北里大会では会場費がかからなかったが、それに比べ会場費が大きく膨らんだ。一方で、学会運営業務のうち一部の必要なもののみを外部委託(アカデミックブレイン)したので、総支出額を抑えることができ、黒字決算とすることができた。

6. MSP2018 について(石濱)

- (1) MSP2018 に関連して以下の点が報告された。

- ① 学会 HP に MSP2018 へのリンクが既に貼ってある。
- ② 教育セミナーは2日目の午前に実施予定とした。
- ③ トラベルgrantとして外国人向けのサポートは AOHUPO から依頼されている。
総額として 4,500 ドルが MSP2018 口座に振り込まれることとなる。本案件については後日メールにて審議する予定である。

7. JPrOS2019 について(榊原)(資料 05 参照)

- (1) JPrOS2019 に関連して日程(7月24日～26日)と会場(シーガイア, 200人会場が2個と400人会場が2個を確保)についてと, 加えて以下の点が報告された。
 - ① 宮崎県からの協賛金(学会関連の延べ宿泊数1000泊以上を条件として200万円程度)が得られる予定である。
 - ② 松本先生と大槻先生との共同で大会運営の世話人を担当する。
 - ③ バイオリソースの展示ブースを依頼する。
- (2) 電気泳動学会との合同開催が提案され, 承認された。電気泳動学会の理事会(7月開催予定)での承認により正式決定される予定である。

8. 学会賞について(石濱)

- (1) 受賞者の講演要旨登録(締切3月)を考慮すると, 2月の初旬に決める必要があるため, 速やかな投票のお願いがあった。

9. その他

- (1) 河野先生より, 各理事に jPOST の advisory board としての参画依頼がなされ, 承認された。